

やなぎのごしよいせき★

柳之御所遺跡

★ ★ 見学のしおり



史跡公園の園池えんちから東稻山たばしねを望む



かわらけ



ちゅうぎ
篙 木

学 校 名	
年 組 番	氏 名

やなぎの ごしよ い せき 柳之御所遺跡とは？

やなぎの ごしよ
柳之御所遺跡は、今から約 800 年前の 12 世紀に、東北地方を支配していた奥州藤原氏が拠点にした平泉で、政治に関わる仕事をしていた場所と考えられています。

奥州藤原氏は、**中尊寺**を建てた藤原清衡、**毛越寺**を建てた藤原基衡、**無量光院**を建てた藤原秀衡、そして藤原泰衡の四代にわたり栄えました。

遺跡の位置



柳之御所遺跡は、東を北上川に接し、西に金鷄山、北には高館が眺められる場所にあります。

遺跡の横を流れる北上川は、人や物を運ぶ重要な役割を果たしました。

資料館に展示している右の壺^{つぼ}（**白磁四耳壺**^{はくじしじこ}）は、遠く中国から運ばれてきたものです。

当時はとても価値が高く、権力があり、身分の高い人しか手に入れることができませんでした。



わしだから、持てたのじゃ



白磁四耳壺（中国産）

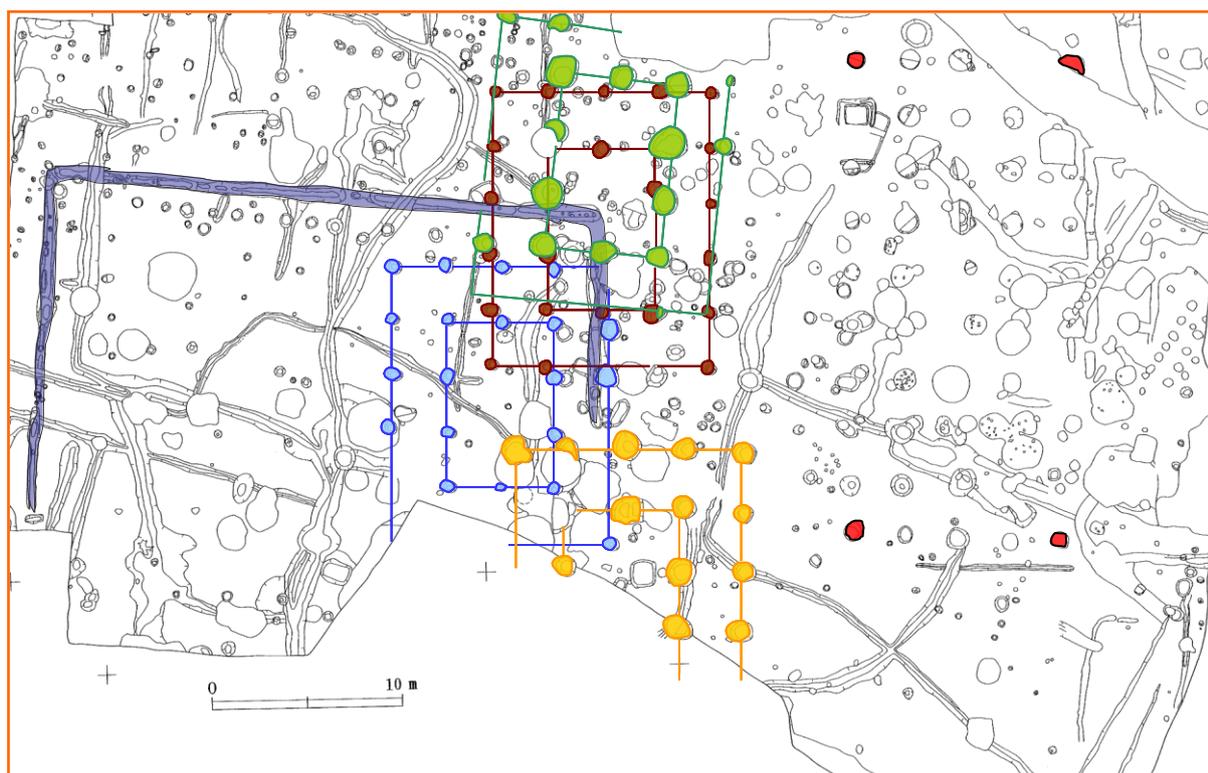
見つかった建物のあと



調査では、12 世紀の柱の穴が数多く見つかっており、その穴を結び、建物の規模や構造を推定します。（↑ 青い部分が建物の範囲）

下の図は、実際に発掘調査で見つかった柱の穴の位置を示したもので、わかりやすいように、同じ建物跡と思われるものを着色してみました。

資料館では、発掘時の遺跡の様子を模型で再現し、史跡公園では、建物跡が見つかった場所に、丸太材などで柱の位置を表現しています。



史跡公園では、建物跡の柱の位置を表現しています

こうそ 建物の構造は？

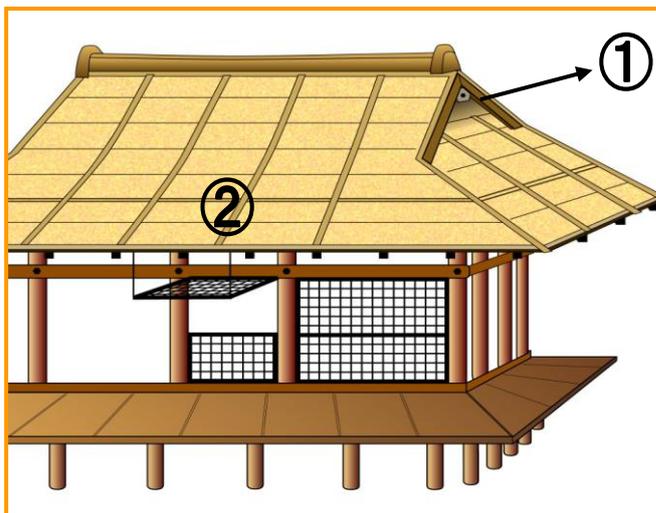
遺跡からは、建物に関する遺物も数多く見つっていますが、どのよう
に使われていたのでしょうか。

下の木材を専門の先生方に見ていただいたところ、門の屋根（下図①の
部分）に使われていた破風板であることがわかりました。



破風板（長さは約 1.6m）

えまきもの
絵巻物などに描かれた家や門などを観察すると、この形の木材を見つ
けることができます。



当時の屋根は、木の皮や板を使うのが一般的でしたが、遺跡では瓦^{かわら}が
見ついていることから、瓦ぶきの屋根もあったと考えられます。

発掘調査では、まれに柱が腐りきらないで発見されることがあります。

右の写真は、建物の柱ではなく、堀にかけられていた橋脚の一部であることがわかりました。（直径約40cm）



室内の様子は？



次に建物の中を見てみましょう。室内で宴会（うたげ）が行われています。

左の木製の折敷（お盆）の上ののっている器は何でしょうか。

器は素焼きのかわらけというもので、食べ物やお酒を入れていました。宴会が終わると捨て、次々と新しいものを用意していたようです。



かわらけは、土の中から大量に発見されており、調査開始から出土した量を合わせると、十数トンにもなります。

中には右の写真のように、絵や文字が墨で書かれたものも発見されています。



特徴のある出土品

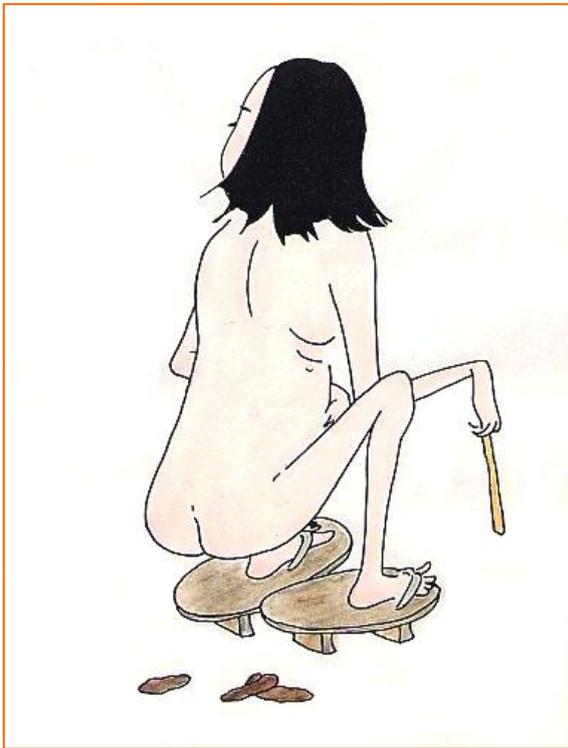
遺跡からは、**おぶつはいきあな**（**汚物廃棄穴**）（排泄物を貯めた穴）が、数多く見つかっています。

（ちゅう木、折敷、**おぶつ**が見えます → ）



ここが当時のトイレだったのか、トイレから排泄物^{はいせつぶつ}を運んで貯めたもの^{こえだ}（肥溜めのようなもの）かは不明です。

その穴に入っていた土を分析^{ぶんせき}すると、ウリ科^か（キュウリやカボチャなど）の種^{ふく}などが含まれていて、当時の人が食べていたものが、いろいろとわかってきます。（寄生虫^{きせいちゅう}の卵も見つかっています）



左の子どもが手に持っているものは、今のトイレットペーパーにあたるちゅう木^きと呼ばれるものです。



遺跡からは、大量のちゅう木が見つっていますが、お尻^{しり}を拭く^ふときは痛^{いた}くなかったのでしょうか。

よく見学者から、「穴やちゅう木は臭^{にお}いませんか？」と聞かれますが、汚物^{おぶつ}は土の中で分解されているため、特有^{とくゆう}の臭^{にお}いはほとんどありません。



また、前ページの子どもも履いて
いる^{げ た}下駄、^{ごいし}碁石、竹とんぼ、^{しょうぎ こま}将棋の駒
なども見つかっています。



これ以外にも、今の私たちが使っている道具と同じようなものも、発見されています。

下の写真は、大工さんが持っている道具の一つであるノミ（木材に穴をあけたり、^{みぞ}溝を^{きざ}刻んだりする道具）です。





上の写真は、裁縫などで使われたものと思われる**物差し**です。

遺跡からは2本見つかっていて、それぞれ目盛の幅が違っています。

下の写真は、4つの文字が彫られた**銅印**（はんこ）です。



上から



下から

文字をよく見ると、地名を指すと思われる「**磐前村印**」という文字が読みとれますが、磐前村という場所が、今のどのあたりを指すのか、未だにはっきりとわかっていません。

ここで紹介したもの以外にも、資料館にはいろいろ展示されています。

「これは何に使ったのかな？」と考えながら、じっくりご覧下さい。

イラスト：丸山・矢崎(静)





また来てね～！

【編集】

岩手県教育委員会

生涯学習文化課 柳之御所班

(© 2002, 2010)

来館記念スタンプ

柳之御所遺跡から出土した

いわさきむらいん
「磐前村印」を押してみよう



スタンプは受付にあります！

